

検討テーマ**支援の効果測定を検討****検討事項**

支援による利用者の変化をより具体的に測定するための成果指標の検討

【目的】

「子ども・若者支援の状況を可視化する」

従来、子ども・若者支援においては、「就労」「復学」といったゴールのみで成果を測定されていた。しかしながら、こうした成果に辿りつくには時間がかかる場合も多く、長期的な視野をもってサポートすることの重要性を社会的に理解していただくためにも新たな成果指標が求められている。そのために、効果測定（成果指標）の検討を行う。

【成果指標案】別紙**【成果指標の運用】**

- ・平成26年度において試行実施
- ・名古屋市子ども・若者総合相談センターからのリファー時に使用
- ・リファー時に名古屋市子ども・若者総合相談センターでの現状をチェック
- ・6か月ごとに、名古屋市子ども・若者総合相談センターよりリファー先に連絡し、現状を確認（支援が終了した時及びストップした時などは、速やかにリファー先からセンターに連絡）

成果指標

現 状	自立に向けた行動		現 状	コミュニケーション (対人関係)
0	支援ストップ	来所拒否など支援がストップしている	1	他者への警戒心、拒絶感が強く、家族も含め、誰ともコミュニケーションがとれない
1	自分では相談に来ることができない	自分の部屋から出ることができない	2	インターネット・メール等であれば、複数の他者とコミュニケーションができる
2		自宅から出ることができない	3	一人でもコミュニケーションをとれる人がいる（家族・友人等）
3		普段は自宅から出ないが特定の場所あるいは特定の目的であれば外出することができる	4	特定の人・特定の話題ならば会話が成立する
4	自分で相談に来ることができる	周囲から言われるがままに来所している。来所はしているが受身あるいは拒否的な状態。	5	複数の他者からの働きかけにこたえることができる
5		自分自身の意思により来所している状態	6	相談員などの声掛けがあれば、他者に働きかけることができる
6		情報収集など自立に向けた具体的な行動に取り組むことができる	7	自分から人に声をかけ人にかかわることができる
7		【就労・進学等】 体験的な就労など社会参加に向けたトレーニングを行うことができる	8	他者の気持ちを考えたコミュニケーションをとろうとしている様子が見受けられる
8		将来の方向性を決定し、具体的な準備行動ができる	9	小集団でのコミュニケーションが可能
9		非正規就労が決定している、または進学が決定している	10	社会生活を行う上で支障のないコミュニケーションが可能
10		正規就労が決定している		

* 「自立に向けた行動」と「コミュニケーション」の現状の段階はリンクしていない。

支援機関	評価日時	自立に向けた行動	コミュニケーション	合計	備考